

揺らぎ

貴方はなぜ脚を打ったのです

消えなんとする若さよ
花が微風に揺れるように
貴方は息をしている

私の家が貴方を包むだろう

今日もまた雨が通り過ぎた
怖れることなく
貴方は生きるであろうか

私はここにいる

大気に充ちる祈りの声よ
季節のような生が
陽光に溶けてゆく

私は与えることのない者である

この揺らぎを手にくくするなら
死とともに
大気となってもよい

(1999.7.12)